インナーコートのある家

設計・施工／一級建築士事務所 飛夢房＋北屋建設

# 閉ざされて開かれる家の中のオアシス

人に個性があるように、家にも土地にも個性がある。それをどう見出しデザインするかで、空間も未来もその可能性を大きく広げる。

高窓と勾配をつけた天井が、絶妙な抜け感を叶えたLDK。開口を開け放てば家じゅうが一体になり、グランピング感覚でくつろぎの時を過ごせる。

（上）光と風を集めるインナーコートはリビングの続きのようであり、一つの部屋のようでもある存在感。暮らし方や動線の自由度を高めてくれる。

（下）開放されつつ守られた、どの部屋からも目の届く場所。ストレスなく走り回れる、段差のないフラットサッシで、子どもたちの格好の遊び場に。

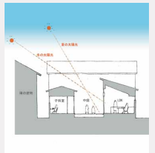
家のデザインと立地条件は切っても切り離せない密なるものだが、かといって立地にとらわれ過ぎればデザインの自由が制限されてしまうこともある。「住む人の想いに寄り添い、周辺環境の課題を受け入れつつ、どこまで暮らし良さ、美しさを追求できるかが命題でした」。

建築士・前田さんが振り返るその家は、2018年3月に完成した。相談を受けた土地は、ご主人の職場に近い岡山市中心部。どこに行くにもアクセスが良く利便性は申し分ないが、周囲には新旧の家々が集積し、東西側には2階建ての隣家が迫り、南側の空き地には2階建ての家が建つことが決まっていた。プライバシーを考慮すれば開口を極力抑えるほかない、つくり手にとってはなかなか厳しい立地条件だ。そこに前田さんが描き出したのは、エントランスとLDK、書斎、個室の四方に囲まれた約15帖のインナーコート。2階部分以外のほぼ全ての室内空間が、窓一つで〝外〟とつながり合う。けれどそこに隣家や通りからの視線は届かない。それでいて日中は自然の陽光と風をたっぷり集めて内からの視線を外へと誘い、日暮れ後はそっと内に溶け込んで心地良い開放感とくつろぎを味わわせてくれる。そこはさながら、青空からそっと生み落とされた「家専用の〝オアシス〟だ。立地を生かすも技なら、ハンデを逆手に取るのもまた妙技。この家が名作と呼ばれる所以は、そこにある。

## 名作 select

### Select.01
**閉鎖と開放を両立した巧みな開口設計**

光と風の往来や内からの視線を楽しませるには十分。けれど外からの視線は巧みにそらす絶妙な窓配置は、数度単位の緻密な検証を重ねた職人の技とこだわりの賜物。

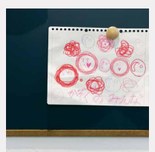


### Select.02
**異空間に統一感を生む素材の妙技**

TV背面のウォールボードは、お気に入りのキッチンの側板を転用したもの。さりげない素材選びの工夫で、日々の風景が緩やかに溶け合う心地良い空間を実現した。

### Select.03
**ガルバリウム製黒板をメモの整理に活用**

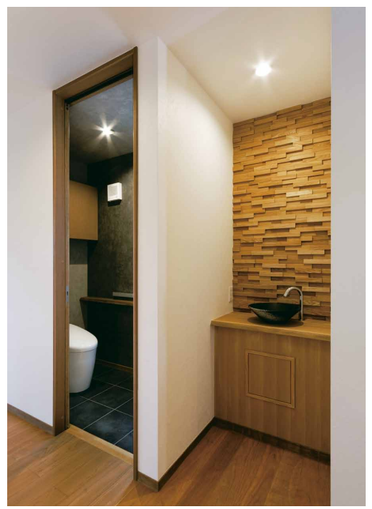
家事コーナーのメモ類整理には、黒板に見立てたガルバリウム鋼板を活用。暮らしのタスクを夫婦でスムーズに共有できる上、インテリアのアクセントにもなって一石二鳥。

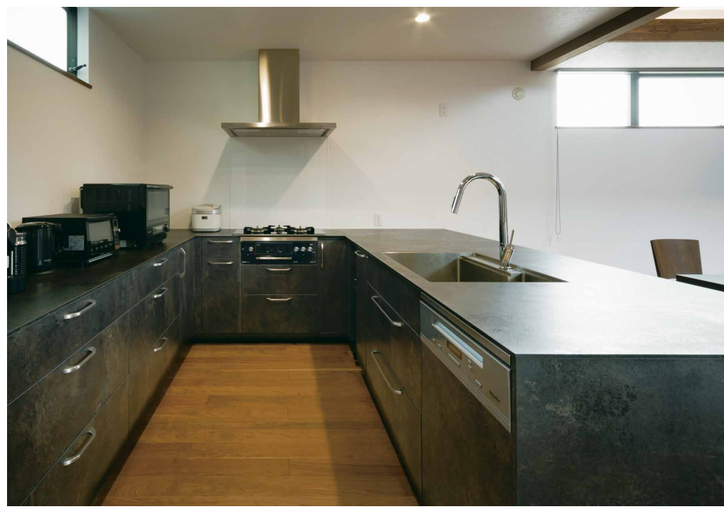


（上）ご主人お気に入りのアールの上がり框。間接照明がまるで月明かりのように洗い出しの土間にぼんやりと広がり、家人の帰宅を出迎えてくれる。

（下）南側はあえて窓を少なくし、プライバシーを確保。空き地には予定通り、入居後間もなく2階建ての住宅の建築が始まった。

いつでも気軽にBBQを楽しめるよう、インナーコートにはアウトドアツールの収納や専用のシンクも完備されている。





（左）白壁と木のやわらかな色彩の中に黒をさりげなく利かせたインテリア。凹凸の陰影や絶妙なムラ感が空間に美しい奥行きを感じさせる。

（右）家事の最中もゆったりと心地良く過ごせるよう、空間を贅沢に割いたコの字型のキッチン。子どもたちと一緒にここに立てる日を心待ちにしている。


設計・施工／**一級建築士事務所 飛夢房（とんぼ）＋株式会社 北屋建設**

岡山市中区平井 7-18-15-11
https://www.tombo-kitaya.co.jp

**問い合わせ**
**050-5871-9398**
※IP電話など一部の電話からは繋がらない場合あり（携帯電話は可）。
繋がりにくい場合は代表番号086-276-3735までおかけください


会社紹介を見る ▶▶P204

other works

DATA
「インナーコートのある家」

家族構成／ご主人、奥さま、お子さま3人
敷地面積／258.04㎡
建築面積／126.07㎡
延床面積／152.05㎡

設計士／前田 崇文

ちょっぴり大胆な口の字型のプランは受け入れて頂けるかどきどきしながらご提案しました。個性的な間取りにご夫婦の感性が相まって唯一無二の素敵な家になりました。